



時枋報幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第143号

令和3年3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／堀 昌道 ●発行人／石嶋 勇

■枋幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

令和二年度を振り返って



枋幼連理事長 石嶋 勇

新型コロナウイルス感染症が世界的なパンデミックとなり人類に襲い掛かっています。

一〇〇年に一度と言われておりますウィルスとの闘い。その様なコロナ禍の中で令和二年度がスタートしました。

栃木県幼稚園連合会の事業は継続できるのであるうか、大変不安なスタートでした。

政府からは緊急事態宣言が発令され公立学校等の休業要請があり幼稚園・認定こども園にも自粛要請が出され、それを受けて休園や自主登園などの対応に追われました。

六月には学校・幼稚園・認定こども園が再開され、子どもたちの歓声が戻ってきました。

しかし、年が明けて一月十三日に二回目の緊急事態宣言が発令されました。

まだまだ出口が見えず、新型コロナウイルス感染症の猛威は払拭されず医療機関が逼迫し崩壊寸前の状況です。海外ではワクチンの開発が進み、すでにワクチンの接種が開始されたようです。

我が国でも安全性が確保されたワクチンの一日も早い接種を切望しております。

令和二年度を振り返って

こども政策課長 田中島 浩子



このようなコロナ禍の中で何が出来て何が出来ないのか、枋幼連は栃木県及び市町担当部局のご指導を賜りながら諸活動を進めて参りました。また各委員会の皆様の創意工夫を重ねて各種事業を実施してまいりました。その甲斐あって研修や委員会活動など量の部分では減少したものの質の部分ではしっかりと担保出来たものと自負しております。

結びになりますが十一月十五日投票の栃木県知事選挙において会員の皆様の温かいご支援を頂き、福田富一氏が圧倒的勝利を収めることが出来ました。

併せて栃木県への要望活動も枋私幼振興財団・私立幼稚園振興連盟と共に進めて参りました。一年間ありがとうございました。

いを巡らせますが、今年度は迷うことなく国民生活に甚大な影響を及ぼした「新型コロナウイルス感染症」です。

教育・保育の現場においては、かつて経験したことのない環境で、子どもたちの健やかな学びの保障や保護者の多様なニーズに応えるため、多大な御苦労があったものと推察いたします。改めて感謝申し上げます。

さて、県では昨年三月に「こども子ども・子育て支援プラン（二期計画）」を策定し、県民が安心して子どもを生み、育てることができ、子どもが健やかに成長することが出来る地域社会の実現を目指し、各種施策を推進しております。

令和三年度からは第三子以降保育料等免除事業の補助対象に、一号認定子ども及び新制度移行幼稚園児の副食費を追加するなど、子育て世帯の多様なニーズを把握しながら、より一層支援の充実を図って参ります。

今後とも、市町との連携はもとより、オール栃木体制で子育て支援を着実に進めて参りますので、貴連合会及び幼稚園、認定こども園の皆様との更なる御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、子どもたちがウィルスに怯えることなく元気に遊び活動できる日が到来することを祈念し、令和二年度の振り返りいたします。



設置者・園長研修会

開催日：令和三年一月二十二日（金）
会場：ホテルニューイタヤ
参加：会場二十八名 リモート八十五名

一月二十二日（金）午後二時三十分より、設置者・園長経営研修会がホテルニューイタヤにて開催された。現地で二十八人、リモートで八十五人の出席があった。

石嶋勇理理事長からの挨拶・栗原森人経営研究委員長からの趣旨説明の後、研修一に入った。最初に「幼稚園におけるコロナウイルス感染症対策について」と題して、谷川尚久氏（子ども政策課子ども・子育て支援班係長）より講話があった。緊急事態宣言・県内の感染者急拡大を受け、緊迫感のある中での具体的な説明に参加者は耳を傾けた。新型コロナウイルス感染症にどのような対策をすべきか詳しく説明がなされた。特に感染経路を断つこと・免疫力を高めることの重要性が強調されていた。実際に感染者が施設内に出た際の対応など、園で起きうる事態が細かく想定されていた。各園が新型コロナウイルス感染症への備えを続けてきた約一年間の歩みを振り返るとともに、収束



までいっそうの緊張感をもって臨むことを参加者が心に刻む時間であった。

研修一

演題 「栃木県幼児教育センター事業について」

講師

栃木県幼児教育センター
センター長 堀江 賢氏

はじめに、令和二年度幼児教育センター調査研究の紹介があった。

今年度は、幼児期に育みたい資質・能力が育まれている姿と



はどのようなか、また、遊びを通してどのような資質・能力が育まれているのかを、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりに、何を大切にしたらよいのか具体的な場面から考えた内容のリーフレットを作成している。これは令和三年四月には各園に配布できるので活用してほしいとの話があった。

次に、令和三年度幼児教育センター研修についての説明があった。

センターでは、今年度から研修ごとに受講していることを証明するシールを発行している。各人で管理、保管しておくしてほしい。また、今年度の集合研修では、新型コロナウイルス感染症予防・感染症拡大防止のため全所をあげて対策をしてきたが、次年度においても出来る限り取り組んで

いく。また、今年度残り三つの研修はすべてオンラインとなったので、各園では研修場所の確保等に協力をお願いしたい。次年度は、研修に参加する場合、センターホームページで中止になっていないか確認してから、マスク着用、健康管理等に留意して参加してほしいとのことだ。

令和三年度に行われる研修については、次の四つの項目に分けて紹介された。

一、幼小連携に関する研修
・合同研修（幼・こ・保は年長児担当、小学校は学年を問わず各学年一名、会場は総合教育センターのみとなる）

・幼小連携推進者養成研修（市町教育委員会、保育主管課より選定された、幼・こ・保・小の教職員が参加する）

・スタートカリキュラム講座（廃止となるが、園内研修のテーマとして行う場合は教育・保育アドバイザーの講話も可能なのでセンターに相談してほしい）

二、教育課程に関する研修
・教育課程研究集会（「幼児教育」センターでの研修は二日、各園での研修報告の作成を含めて三日間の研修で、幼児教育の情報や他園の情報を得たり、自園の保育について考えたりする研修で、主任級の先生を養成する場としても活用できる）

三、スキル等に関する研修
・トップセミナーⅠ（〇・五日）
・保育の原理や内容に関する内容
・トップセミナーⅡ（〇・五日）
・マネジメント等に関する内容
※講師の了解が得られれば、オンラインでの受講も可

・幼児期の特別支援教育研修（二日）

参加者からは、日頃の悩みが解消されたとか指導法を変えてみようという前向きな気持ちになった等の声が聞こえ、大変人気のある研修

スキルアップセミナーⅠ（一日）
・個別の指導計画の在り方について理解し、計画の作成力と活用力の向上を図る

スキルアップセミナーⅡ（一日）
・幼児理解に基づく評価の在り方と要録の役割について理解し、幼児の発達と学びをつなぐ要録を作成する力の向上を図る

四、ステージごとの研修

・新規採用幼稚園教諭等研修（九日（集合研修四日））
・教諭・保育教諭としての職務の遂行に必要な基本的事項に関する研修を行い、実戦的指導力及び使命感等幅広い見識を養うことを目的とする

・幼稚園等教職五年目研修（二・五日）
・教職五年目の段階に即応した教育に関する知識・技能を身につけるため、また、組織の一員としての自覚と保育の実戦的指導力の向上を図ることを目的とする

・中堅幼稚園教諭等資質向上研修（六日）
・幼稚園等の教育に關し相當の経験を有し、教育活動その他学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図ることを目的とする

（各研修の開催日は、三月配布予定の研修案内を参照）
続いて教育・保育アドバイザーについて説明がなされた。ZOOMを使ってオンラインで講話や演習を行っているので、園内研修等に活用

することを検討してほしいとのことだ。

最後に、令和二年度栃木県教育研究発表大会幼小連携部会が令和三年一月三十日（土）にZOOMを使ってオンラインで開催されるとの紹介があった。これについては、センタールのホームページから申し込んでほしいとのことだった。

研修三

演題 「可能性への挑戦」

講師

舞の海 秀平氏

研修三として、力士、解説者、そして芸能人として有名な舞の海秀平氏が登壇した。



しかしながら、当の舞の海氏は、話が参考になるとは思えないと思う。主催者の人選ミスでは、とまで。それでも自身の経験した事を話してくれるとのこと。そもそも氏は大相撲初場所の解説、それも千秋楽を明後日に控えるこの日に登壇するのだから、そんなことは無いはず。

そんな冒頭で始まったが、話はまずテレビ、メディアのことに。氏が言うには、テレビでは本音を言えず、伝えられる内容を信じないような、という。テレビはスポンサー、局の方針などがあり、CMのないNHKでも同様、ましてや現在世界で猛威を振るうコロナウイルスについて、PCR検査、陽性者の割合などのデータであっても、都合のいいよ

うに報道されているらしい。情報リテラシーという言葉があるが、そもその得る情報が捻じ曲げられている。如何ともしがたい。氏の出演している旅番組の内容は本人の主観に依ることもあるが、調査や結果のデータは報道を見る以上に知る手段は乏しい。加速する情報化社会への、これは氏からの警鐘なのか。そんな気持ちで聞いていた。

変わって今度は相撲の話。大相撲の歴史や内情、裏話、次第に氏の相撲人生と話は移り、力士を志した動機となった。元は教員を目指した内定までされていたが、後輩の死から一転、力士になるべく相撲部屋の門戸を叩いたそう。シリコンなど、力士になる際の苦労を語ったが、並々ならぬ努力と手法に脱帽である。その後は師匠である横綱出羽海による指導や、自身の立ち合い時の取り組み方など、相撲人生を語っていった。

終始ゆったりと、しかし軽妙な話口調は氏の柔和な性格を表しているようだった。だが、決まっていた教員の道を蹴って力士を志し、誰もが知るような力士になった舞の海氏。冒頭の「参考にならない話」は、だが随所に自身の受けた指導方法や、本人の努力、そして人生の随所に起こった出来事から、我々教育に携わる人間への心構えや、可能性への挑戦を忘れず取り組み続ける重要性が含まれていた。最後の、師からも考えすぎないことも大事との言葉も、舞の海氏が「技のデパート」と称されることとなった指



導の一つと感じる。無気力な雰囲気開始から一転、今の状況に対する気構えを聞いた気がし、今回の研修は締めくくられた。

研修会だより

第三回 保育セオリー講座

期日 令和三年一月八日（金）

会場 コンセーレアイリスホール
参加 百十名

テーマ 「リモート参加者百九名
返る」コロナ禍での保育を振り返る

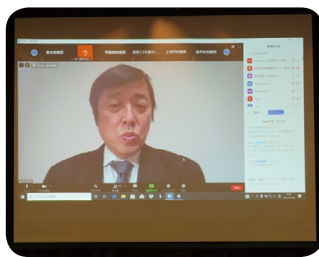
講師

港北幼稚園・ゆうゆの森
幼稚園 園長 渡辺 英則氏

新型コロナウイルス感染症の影響は、年が明け令和三年になった今も依然先の見えな

い状況だ。第三回保育セオリーは、そんなコロナ禍での保育を振り返り、改めて幼児期に必要な子どもの育ちを考える機会となった。

渡辺園長は講座内で、港北幼稚園や、ゆうゆの森幼稚園で撮影した動画を見せてくれた。そこ



には、新型コロナウイルス感染症の影響により登園自粛の要請が出ている期間中に、様々な保育者が自分ごとを撮影し、園と家庭の距離を少しでも縮めようとする姿が映っていた。人と会うことができない状況だか

ら、オンラインで保育者の姿を見せることがコロナ禍の保育の特徴だという。



そして、コロナ禍で見えてきたものは、教育・保育が子どもの育ちにとってどのようなのかではなく、働いている親にとってもどのようなのかという視点で考えられてしまっているということだ。今、幼稚園や保育園、認定こども園は、多様な保育サービスや過度の早期教育などを競い合っているのが実態である。乳幼児期の教育・保育が大切であるというのであれば、コロナ禍で、園を休園にするか、それとも開園にするかという議論は、乳幼児期の子どもの教育を受ける権利をどう保障していくかがまず先になされるべきで、保護者の子どもを預けたいというニーズがあるかどうかはその後の問題であってほしかった。

これから幼児期の教育・保育に求められることは、答えのない中で自分で答えを出していくように、自ら学ぶ力を育てることである。それは、何をどう使っているかも大切だが、それをどう使うかがより大切である。そして、子どもをどう育てるか、子どものことを話し合う園文化を作っていくことが必要である。その話し合いの基となるものとしてドキュメンテーションがある。写真を通して子どもの育ちを語り合うことができるからだ。保育のやり方ばかりに目をつけるのではなく、子どもの姿を見ることが今求められている教育・保育の根幹である。



認定こども園委員会研修会

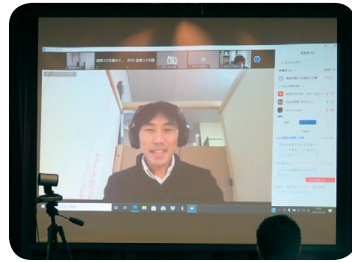
【期日】 令和三年一月十八日（月）
【会場】 コンセーレ
【アイスホール】

【参加】 九十一名

【内容】 (リモート参加者八十三名)
ICTを活用した園の働き方改革、明日の保育のために、

【講師】 学校法人リズム学園
学園長兼恵幼稚園長 井内 聖氏

【ヒモ】 ICTとは通信機器を活用したコミュニケーションを意味する。ICTを活用したシステムやサービスを利用して、保育と労働の整理をすることが必要だとしている。幼児教育関係者は保育の質を高めるために量を積み重ねる傾向にあるが、講師は労働から保育を考えることが重要であり、



不要な仕事をしない、先生がしなければならぬ仕事、先生でなくてもいい仕事を見極め、掃除やバスの添乗は資格を持たない人に頼むのも一考。ICTに取り組み理由とは、業務の大幅なスリム化、見える化にある。北海道にある園の様子をZOOMで見せていただいたが、クラウド上にデータがあるためWIFIで園児管理できる環境が整えられ、私たちが研修

している十五時前だというのにフリーアドレスで職員会議をしていたのには驚いた。

講義の途中、参加者によるグループミーティングでは、登降園システムや電子連絡帳など進化したシステムの話を聞くことができ、わが園は一昔前に園児管理システムを導入していたが、新しいシステム変更の必要性を強く感じた。

井内氏は補助金を活用してシステムを導入し、初期投資の費用を抑えるべき、中小企業向けのテレワークチャットツール、Treeioプロジェクト管理ツールなどの紹介があった。資料はフェイスブックで申し込んで欲しいとのこと、筆者もすぐに申し込んで頂いた。園内に紙の資料が一切ないということが職員の労働量のスリム化につながる理想の姿だ。働き方改革にとっても参考になる講座となった。



資質向上研修②「働き方改革」

【期日】 令和三年二月十五日（月）
【会場】 コンセーレ（大ホール）

【参加】 八十名

【リモート参加者七十二名】

【テーマ】 「保育の質向上と組織的な保育実践」 ～ミドルリーダーの役割と組織づくり～

【講師】 洗足こども短期大学
幼児教育保育科
准教授 井上眞理子氏

【ヒモ】 新しいやり方にネガティブな反応を示す職員がいるのはなぜか？

井上氏の専門分野でもある「成人教育学」によると、これまでの経験の中で良かれと思ってきたことや出来上がった価値観が、新しいやり方への抵抗感につながるからであるという。また、園内研修を実施しても①本音で語れない②特定の人の意見に集約されてしまう③愚痴を語って終わるなど、生産性のない議論に陥ってしまうことはないだろうか。本研修では、それらを超えるためにできることや、学ぶ環境を構築するコツを知り、組織をつくるリーダーシップのあり方を考えることができた。

①②③の状況を避けるために示された4つのポイントについては、ワークシートとグループセッションを行いながら理解を深めた。

ポイントの一つ目は「話す内容を整理する」こと。思いつきでは話が整理できないため、話す時間の3倍ほどの時間をかけて内容を整理する必要であった。二つ目は「話す・聞く役割を明確にする」ことだ。特定の人ばかり話が長いと、聞き役の人

は話さなくて良いと思ってしまったりである。三つ目は「話す時間を保障する」つまり、話を聞いてもらえらるという安心感を与える心配りだ。最後は「他者を受け入れる態度を身につける」という姿勢について振り返った。

園内研修や会議のディスカッションでは職員の話し力を育てられるように、公平性・平等性を保つことを心がけたい。

一方、組織の発展と職員の育成の面では「人材開発」がキーワードとなるという。組織のあり方は、年功序列ではなく、それぞれが得意な分野で力を発揮できることが重要であり、マニュアル化や報酬によるモチベーションアップには限界があるということも覚えておきたい要点であった。

研修の後半では、リーダーシップのあり方や目的に応じたリーダーシップのスタイルが紹介された。

「私が管理しなくては」「管理職にこそリーダーシップが必要」「上手に指示をだす（命令する）」という考えは勘違いであること。そして、

リーダーには一人ひとりの職員の行動をサポートする姿勢が求められることや、全職員がリーダーシップを



發揮する役割であること、命令は時に相手の精神的苦痛につながることもなどが挙げられ、信頼関係の重要性が伝えられた。

リーダーシップの6つのスタイルの紹介では、それぞれのメリットとリスクが解説された。

- ・調整リーダーシップ
- ・コーチングリーダーシップ
- ・ビジョンリーダーシップ
- ・指示命令リーダーシップ
- ・ベースセッター型リーダーシップ
- ・仲良しリーダーシップ

その時の状況やメンバーの得意分野を分析しながら使い分けることで、組織の動きは格段にスムーズになるはずだ。

井上氏は「リーダーシップをとる時に必要な5つのこと」として、次の項目を示した。①明確なビジョンを示す、②メンバーの意見を尊重する、③冷静に判断する、④信頼を得る、⑤フォロワーシップ（補佐）を得ることの5つである。組織では誰もがリーダーの役割を担うことから、職員それぞれが日頃から意識しておきたい5箇条とも言えるのではないだろうか。

本研修は、参加者のほとんどがオンラインによる受講であった。しかし、ブレイクアウトセッションによる意見交換や、思わず現場を思い浮かべるような解説を聞く中で、参加者自身が組織の中でどうありたいかを考え、職員の関係をポジティブに切り替えるきっかけを得た研修となった。

設置者・園長経営研修会

期日 令和三年二月十八日（木）

会場 コンセーレ（アイリスホール）
参加 九十名

（リモート参加者七十名）

内容

講師

副学長

八代 尚宏氏

昭和女子大学

講師は、労働経済学、経済政策を専門とする経済学者である。政府の制度改革にも携わり、厚労省と保育事業について議論を交わした経験がある。

日本の人口推移は、



二〇〇八年の増加ピーク以降、現在もずっと減り続けている。なかでも高齢者と子どもを除いた「生産年齢人口」が急速な減少傾向にある。

一方で、女性の就業率は上昇傾向で、サライーマン化、晩婚化から「保育需要の増大」「少子化」が進んでいる。こうした状況に、幼稚園・認定子ども園はどのように対応するべきか。

キーワードは「保育も福祉からサービスの世界へ」。高齢者介護はすでに「サービスの世界」。企業の自由参入により、施設の供給力が向上している。かつての「福祉」では

認められていなかった、専業主婦世帯であっても利用可能が当たり前になっている。



幼児教育の重要性を前面に掲げ、「一人っ子への級友効果」「家庭環境の補完」「保育と幼児教育の組み合わせ」「オンライン保育」など、保育サービスへの高付加価値化を図ることで、高齢者介護と同じような「専業主婦世帯も利用可能」な施設を目指す。

この保育サービスの実現には、①保育サービス価格（保育料）の原則自由化。②施設との直接契約・直接補助方式へ。たとえば、介護保険と同様な「育児保険」「子ども保険」なるものを創設し、利用者へ直接補助（社会保険方式）するものである。

令和二年度第二回「〇・一・二歳児研修」

期日 令和三年二月二十六日（金）

会場 ホテルニューイタヤ（天平の間）
参加 六十名

テーマ

講師

准教授 長澤 順氏

作新学院大学女子短期大学部

今年度最後の研修として「〇・一・二歳児研修」「音楽と遊ぼう」「乳児期にこそ音楽を」と

を」とをテーマとして作新学院大学短期大学部准教授長澤順氏に乳児期の音楽との関わりや実際にどんな音楽遊びがあるのかを教えてもらった。前半の講演で乳児期の音楽活動の三つの重要なポイントを挙げた。

一つ目は、色々な事をするより同じであっても、短くても何回もしてあげようとした。二つ目は、上手い下手ではなく、人口的（CDなど）でなく、なまの声であることが大切である。三つ目は、音環境の整備、乳幼児は不愉快だやうるさいと思ってもその場を自力で避けられない。よって普段から静かな環境を整える必要がある。以上のようなポイントを解かりやすく教えてくれた。後半は、



長澤氏のピアノを囲んで実際に手遊びやその替え歌で和やかな楽しい雰囲気の中研修が進んだ。研修も終わりを向かえる頃、乳幼児だけでなく、三〜五歳児も楽しめるゲームをいくつか紹介下さり、講習生もしばし童心に帰り講習を最後まで楽しんだ。



令和3年度私立幼稚園関係予算案

(単位：千円)

事業名	令和2年度 予算額	令和3年度 予算額(案)	概要
1 幼稚園運営費補助金	1,673,555	1,416,085	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児1人当たり 198,600円(R2 196,100円) 3～5歳 6,369人 満3歳 703人 一種免許状加算分2,492千円 処遇改善加算分9,093千円
2 幼稚園教材費等補助金	900	822	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の教材費等経費に対する助成 園児一人当たり 39,100円(R2同額)
3 地域子育て推進事業費補助金	161,430	137,660	
(1) 子育てランド事業	26,090	22,580	私立幼稚園及び認定こども園が実施する子育て支援事業に対する助成 A 2事業実施かつ市町補助130千円以上 1園当たり 130千円 B 3事業以上実施かつ市町補助200千円以上 1園当たり 200千円
(2) わんぱく保育推進事業	135,340	115,080	私立幼稚園及び認定こども園が行う預かり保育事業に対する助成 ○通常分 1園当たり 800千円、1,200千円、1,600千円 ○特定分(4時間超) 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○長期休業分 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○休業日分 1園当たり 300千円、480千円、660千円
4 栃木県私立幼稚園振興財団補助金	239,145	246,425	私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成 ・補助率 → 教職員標準給与額の29/1000
5 特別支援教育費補助金	485,296	455,896	特別支援を要する園児が就園する私立幼稚園及び認定こども園に対し、その経費の一部を助成 学法 784千円/人(国庫、県単) 学法以外 392千円/人(県単)
6 私立学校教職員共済補助金	158,221	161,222	長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助(R2同率)
7 栃木県私学団体補助金	6,000	6,000	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額(1/2以内)
8 幼稚園耐震化事業費	316,583	344,846	認定こども園への移行を予定している私立幼稚園の耐震化事業に対する補助 ・補助率 1/2
9 幼稚園緊急環境整備事業費	75,590	150,511	○学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成 ・補助率 認定こども園 1/2、左記以外幼稚園 1/3 ○新型コロナウイルス感染症対策に対する助成(幼稚園及び幼稚園型認定こども園) ・補助率 10/10 ○認定こども園等における研修支援 ・補助率 1/2 ○認定こども園等への移行支援 ・補助率 1/2 ○園務改善のためのICT化支援(幼稚園及び幼稚園型認定こども園) ・補助率 3/4
10 子どものための教育・保育給付費	11,363,245	11,590,000	施設型給付等に係る市町への負担金及び補助金 ・県負担割合 全国統一費用部分 1/4 (1号園児は地方単独費用部分1/2あり)
11 一時預かり事業	281,657	260,551	一時預かり事業を実施する市町に対する助成 ・県補助率 1/3
12 認定こども園整備事業	730,173	743,694	認定こども園の幼稚園部分の施設整備事業を実施する市町に対する補助 ・県補助率 1/2
13 第3子以降保育料等免除事業費	429,901	490,863	第3子以降の未就学児の保育料等免除事業を実施する市町に対する助成 ・対象 3号認定こども(保育料)、1号・2号認定こども・未移行園児(副食費) ・県補助率 1/2
14 子育てのための施設等利用給付費	814,734	681,197	私立幼稚園(私学助成)等の利用料無償化に係る市町への負担金
計	16,736,430	16,685,772	

令和3年度予算案の内容について

新型コロナウイルスの影響により、例年に比べ大きく県予算が揺れ動く中、目に見えて大きな成果を残す結果には至らなかった。全体的には「上がらなかったが、下がらなかった」という感じである。しかし、厳しい県政事情に加え、コロナ対策で更に厳しさを増す予算編成の中にある「下がらなかった」という事は、大きな評価に値するポイントだと思う。

中でも13.の対象拡大については、要望が通った案件の1つである。これにより第3子以降の1号園児についても対象となり、その幅が大いに広がった。

その他、3の子育てランドやわんぱく保育、4振興財団(退職金給付事業)、5特別支援、7栃幼連への補助等、今年度と同率を堅持出来たことに、各設置者・園長先生方はもちろん、福田知事をはじめ自民党県議の皆様のご尽力に重ねて感謝申し上げます。

振興委員長 富川 将



新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、本年度は様々な研修を中止にしたり、例年とは異なる方法で実施したりしてきましたが、御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。

新規採用幼稚園教諭等研修を振り返って

二月九日に、全日程が終了しました。オンラインでの実施となりましたが、新採者の研修に臨む姿勢や表情からは、保育者として、また社会人としての成長を感じ取ることができました。

新採者からは、「子どもの成長を見逃さず、子どもたちにとっての一番を考えながら保育をしていきたい」「子ども一人一人の発達にに応じ、子どもが主体となって行動できるような環境作りを考えていきたい」「毎年出会う子どもは違うので、一人一人の違いを受け止め、子どもたちも自分も楽しい毎日を送れるような保育をしたい」などの感想が寄せられ、この一年で得たものを糧に、今後の保育に希望を抱いているよ



うでした。
新採者の更なる成長を心より応援しております。

幼児期の特別支援教育研修

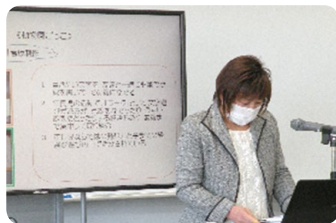
今年度は、第一日を中止とし、第二日のみ、研修内容を改編して、総合教育センターで実施しました。はじめに、宇都宮大学大学院教育学研究科准教授の司城紀代美先生から「子どもとつながる、子どもをつなぐ、特別支援教育」として講話をいただきました。次に、元東京都公立幼稚園園長の瀬田雅江先生から「個が育つ、みんなで育つ保育の実践」として講話をいただきました。最後に、講話を通して、「視点のチェンジ」をテーマに自身の保育等について振り返って考えたことをグループで共有しました。

受講者からは、「集団の中で育つということとを忘れずに、楽しい保育ができるような環境の構成や支援を心がけたい」「子どもと子どもをつなぐことを意識して関わっていききたい」「まず視点を変えて子どもに寄り添っていききたい」などの感想がありました。



栃木県教育研究発表大会 「幼小連携部会」

一月三十日にオンラインでの開催となりました。今年度は「鹿沼市の幼小連携の取組」「幼小ジョイントプロジェクトを通して」をテーマに、平成三十年度の鹿沼市の実践内容や、その後の具体的な取組についての発表がありました。小学校入学当初は、幼児期の学びを踏まえ、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かえるようにすることが求められています。幼稚園等、小学校、そして行政のそれぞれの取組が相まって、幼小がそれぞれの教育の在り方について、見直しをしていった先進的な取組が、参加者の新たな学びにつながりました。「小学校で困らないようにではなく、学校生活に慣れるように、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を改めて意識していくことが大切と感じた」「スタートカリキュラムの意義や取組を学校全体で共有していきたい」などの感想がありました。



認定こども園仁神堂幼稚園 守屋 和美 主幹教諭

要録の作成・送付の時期です

幼稚園幼児指導要録や幼保連携型認定こども園園児指導要録等は、子

どもの育ちや指導の過程を小学校へとつなぐ重要なものです。抄本または写しを小学校等の校長に送付することが義務付けられています。県教育委員会では、平成三十年四月に記入の手引を作成し、各幼稚園・こども園・保育所に送付しました。詳細な情報が掲載されていますので、不明な点などがある際には、御参照いただければと思います。なお、幼児教育センターのホームページからダウンロードすることもできます。



★御連絡とお願い★

【3月中旬発送】

○次の研修の受講者に「受講の記録」を送付しましたので御確認ください。

・幼稚園等教職5年目研修
・スタートカリキュラム講座

○次年度の「幼稚園等教職5年目研修」と「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」の照会(文書)を送りました。お手数ですが、御報告をお願いします。なお、本年度が通年中止となったため「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」を受講できなかった対象者は、次年度(令和3年度)に受講してください。





こども政策課だより

各種提出書類について

●運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二一年五月上旬（予定）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに二〇二〇年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いします。

●教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二一年五月上旬（予定）です。

●運営費補助金及び教材費等補助金

特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに二〇二一年四月上旬（予定）です。

●二〇二〇年度決算書及び二〇二一年度予算書の提出について

二〇二〇年度決算書及び二〇二一年度予算書の提出期限は、二〇二一年六月三十日（水）です。決算書等（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園・認定こども園宛てに別途メールでお送りします。

年度予算書の提出期限は、二〇二一年六月三十日（水）です。決算書等（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園・認定こども園宛てに別途メールでお送りします。

●資産総額の変更登記届届

二〇二〇年度決算に伴う資産総額の変更登記は、寄附行為で定める期限（五月末日又は六月末日）までに行い、期限後一ヶ月以内に登記届届を提出してください。

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底について

各園におかれましては、日頃から新型コロナウイルス感染症の拡大防止に御協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

こども政策課からも、新型コロナウイルスに関連する国の通知など、随時最新の情報を提供して参りますので、各園におかれましては、新年度を迎えるに当たり、改めて感染防止対策を徹底していただきますようお願いいたします。

令和三年 四月～六月までの事業予定

4月2日	新規採用幼稚園教諭等研修（集合研修）※幼稚園等教職5年目研修
5月12日	0・1・2歳児研修
5月19日	柘幼連定時総会（令和2年度決算総会）※幼小連携推進者養成研修
5月20日	資質向上研修（教育実習の受け入れ）※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
5月21日	①新採研公開保育（宇大附属幼稚園）②新採研公開保育（宇大附属幼稚園）※教育課程研究会
5月24日	認定こども園委員会研修
5月26日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園）※幼児期の特別支援教育研修
5月28日	保育テクニカル講座
6月1日	全私幼退団協議会総会（佐賀県）設置者・園長研修会
6月2日	③新採研公開保育（宇大附属幼稚園）※は幼児教育センター事業
6月8日	
6月12日	
6月15日	
6月16日	
6月17日	
6月18日	
6月24日	
6月25日	

総会予告

令和三年年度 柘幼連 定時総会

（令和2年度決算総会）
令和三年五月二十日（木）
会場：コンセーレ

計報

●足利市 山辺幼稚園 理事長 阿由葉 浦吉 先生 令和二年十二月三日 逝去	●小山市 認定こども園生井ゆりかこ幼稚園 園長 徳永 浩子 先生 令和三年一月十七日 逝去	●佐野市 認定こども園あかみ幼稚園 前理事長 中山 恵三 先生 令和三年二月三日 逝去	●小山市 認定こども園小山幼稚園 理事長 山中 昌平 先生 令和三年二月五日 逝去
---	---	---	---

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年となった。今まで行なっていた各行事が軒並み中止・延期・規模縮小を余儀なくされた。新しい生活様式の中で園生活を送る中で、子どもたちにとって満足いく生活になっているだろうか、自問自答しながらの日々であった。

入園式直後から、緊急事態宣言による登園自粛となり、今年度入園した子どもたちにとって、なかなか園生活に慣れるにも時間がかかったと思う。

対策をしっかりと取っていたとしても、感染症にかかってしまう場合もある。誰もが経験したことのない未曾有の事態であるが、子どもたちへの保育は決して止まっていけない。コロナ禍での生活の中であつたとしても、将来を担う子どもたちの成長を第一に考え、最大限の愛情を注いでいく必要がある。今まで行なってきたことができないもどかしさはある。しかし、この事態を乗り越えてこそ新しい世界が生まれるような気がしている。

自粛疲れもピークに達しているが、ワクチン接種も始まるようであるし、少しはストレスを抱えずに生活できるようになって欲しいものである。今が正念場だ。

（愛育幼稚園 酒井 康晴）